

非鉄金属概況

日本鉱業協会 企画調査部

金

【海外】

1. 価格推移

5月相場	高値	安値
ロンドン相場(\$/toz)	: 1,299.10 (15日)	1,270.05 (3日)
国内建値(円/g)	: 4,602 (14、15日)	4,529 (29日)
為替相場(円/\$、TTS)	: 110.28 (29日)	111.69 (7日)

5月の海外金相場は\$1,281.80/toz(トロイオンス)でスタート、初旬は対主要通貨でドルが買われたことで続落、3日には\$1,270.05まで下げ、月間最安値をつけるとともに、約1週間ぶりの安値となった。ところが、中旬では、一時的に米中の貿易協議を巡り交渉継続への期待感から投資家のリスク回避姿勢がやや和らいでドルが買われる場面もあったものの、市場では米中貿易協議の先行きを巡る不透明感が強まったことでドルが売られ、その動きとは反比例する金が上昇した。15日には\$1,299.10まで上昇し、月間最高値をつけるとともに、約1か月ぶりの高値となった。下旬入りすると、原油安とドル反発から小安く推移したが、月末では、再び先行きの米中の貿易摩擦の激化が改めて意識されたことによるドル安から回復基調となり、31日は15日の水準へ迫る\$1=1,295.55となって越月した。ただ、本年1月から継続していた価格の\$1,300台到達は、5月で途切れることになった。

2. 為替相場推移

5月の為替相場は、我が国では連休明けの7日に\$1=111.69円(TTS相場、以下同じ)でスタート、これが月間最安値となり、前月とは反対に、その後は主として米中協議を材料に円強含みで推移し、月末では概ね\$1=110円水準での展開となった。月末の29日には\$1=110.28円をつけ、本年2月初旬以来ほぼ5か月ぶりの円高・ドル安水準となって翌月入りした。

上旬では、米中貿易協議の先行きを巡る不透明感から、低リスク通貨とされる円を買ってドルを売る動きが優勢だった。中旬では、米中の貿易協議を巡り交渉継続への期待から投資家のリスク回避姿勢がやや和らいだ場面で円売りが出たものの、下旬入りすると、米中交渉がうまく運ばず、先行きの米中の貿易摩擦の激化が改めて意識されたことから円が月末にかけて反発し、\$1=111円水準から\$1=110円水準

へ価格水準を切り上げた。29日には上記通り、ほぼ5か月ぶりの円高値をつけ、31日もほぼ29日水準と同じ、\$1=110.36円となって越月した。

5月の円の対ユーロの動きも、対ドルと同様、上旬での円安・ユーロ高から下旬での円高・ユーロ安へ移行した。これは主に欧州での政治情勢の不安定さや米中貿易摩擦の余波が関係していた。31日の€1=123.24円は2017年5月以来2年ぶりの円高・ユーロ安となった。

【国内】

1. 建値推移

5月の国内金山元建値は大型連休明けの7日に4,590円/g(グラム)でスタート、月中は4,602円と月間最高値をつけた14、15日を除きすべて4,500円台で推移した。中旬に海外相場の高値基調から月間最高値となる4,602円をつけ、半月ぶりの高値となったが、その後は円高傾向と海外相場の弱含み推移から4,500円台の後半での小動きに終始、31日には4,571円をつけて越月した。

2. 金地金生産・出荷・生産者在庫(2019年4月分=平成31年4月分)

生産 : 7,356 kg (前月比 9.9%減、前年比 24.9%減)

出荷 : 6,299 kg (前月比 30.9%減、前年比 36.3%減)

在庫 : 4,934 kg (前月比 25.3%増、前年比 20.1%減)

(生産、出荷、在庫の出典は経産省生産動態統計調査)

4月の生産は直島製錬所の定修から2か月ぶりの前月比マイナス、前年同月比も3か月連続のマイナス。出荷は生産見合いから、前月比、前年同月比とも3か月連続の大幅減。在庫は出荷減から前月比増だが、前年同月比は3か月連続の減。

銅

【海外】

2019年5月のLME銅相場は\$6,300/t台でスタートしたが、米中貿易摩擦が再び激化するなかを月後半には\$6,000を割り込み、月末は\$5,780.5と年初来最安値をつけた。

米中貿易交渉は5日、トランプ米大統領が2,000億ドル相当の中国製品に対する制裁関税第3弾の税率を10日付で10%から25%に引き上げると表明した。「交渉が遅すぎる」として制裁強化に転じた。ただし、適用対象は10日以降に中国から輸出された製品で、それ以前に輸出された製品は対象外のため、米国に輸入されるまでの間は交渉の継続が可能。制裁関税を課していない残りの3,250億ドル分にも

25%の関税を課すと主張。

これに対して、中国政府は13日、交渉が合意されなければ600億ドル相当の米国製品に6月1日付で5~25%の報復関税を発動すると発表した。中国は昨年8月、米国製品に25%の報復関税を課したが、実施日は確定していなかった。このなかに広範なベースメタル、マイナーメタル、フェロアロイも含まれた。また、中国外交部は15日、従来の「貿易摩擦」から「貿易戦争」に表現を変更し、中国は自衛措置を講じていると述べた。

さらに、29日付の人民日報は中国政府がレアアースの輸出を削減する見通しを伝えた。米国が中国の通信機器大手ファーウェイを制裁対象としたことに対し、中国は米国へのレアアースの供給削減を選択した。中国は米国のレアアース輸入の約80%を供給しており、米中の緊張はさらに高まった。

米国の対中国以外の貿易摩擦については、トランプ大統領は8日、イラン産の鉄鉱石、鉄鋼、アルミニウム、銅の購入を禁止する大統領令を発令した。イランが米欧など6か国と結んだ2015年の核合意の履行を一部停止すると発表したことを受けたもの。大統領令はイランの核兵器ないし大陸間弾道ミサイル(ICBM)の製造を阻止することが狙い。一方、17日には、カナダとメキシコの鉄鋼、アルミニウム製品に対する安全保障を理由とした通商拡大法232条に基づく追加関税を撤廃することで合意したと発表した。ところが、30日には、メキシコ国境からの不法移民に同国が十分に対応していないとして、6月10日以降メキシコからの輸入品すべてに5%の関税を課し、移民の流入が止まるまで関税率を段階的に引き上げると表明した。

供給障害要因としては、モパニカパーマインズ(ザンビア)は5月10日、ミンドラノース、セントラル銅鉱山を閉鎖し、シンクリノリウム選鉱場、ミンドラノース、ヘンダーソン銅鉱山プロジェクトに注力すると発表した。これを受け、ルング大統領は閉鎖計画の2鉱山をザンビアに譲渡するよう警告した。

コデルコ(チリ)は5月15日、サルバドール銅鉱山の管理職組合と新労働協約に合意した。当初、組合側は会社側提案を拒否し、政府の仲裁調停に持ち込まれていた。新協約の有効期間は36か月。

コデルコ(チリ)のチュキカマタ銅事業所労組は5月25日、会社側の新労働協約提案を拒否し、29日、90%以上の賛成多数でスト権を確立したと発表した。労使は4日以内に政府に仲裁調停を申し入れる選択肢を持つ。調停期間は5日間。会社側は賃上げ率1.2%、ボーナス\$14,150を提示したが、早期解決一時金は却下した。労組はチュキカマタ鉱山の坑内採掘移行計画への関与、医療保険制度や退職手当の改善を要求している。

需給動向については、国際銅研究会によれば、2019年1~2月の世界の銅鉱石生産は前年同期比1.8%減の3,187千t、地金生産は3,853千t、消費3,812千tでともに横ばい、地金需給バランスは+43千tから+41千tへとほぼバランス推移した。報

告在庫は 21.9%減の 1,260 千t、在庫/消費比率は 4.6 週間から 2.6 週間へと低水準で推移している。

鉱石生産の内訳は精鉱が 1.3%、SXEW は 4%減少した。国別にはチリが鉱石品位低下を主因に 6%減少、インドネシアはグラスベルグ、バツーヒジャウ鉱山の採掘鉱体の移行により 50%減少した。コンゴ民主共和国(DRC)、ザンビアは休止鉱山の再開が一部鉱山の減産に相殺されて 1.3%減少した。ペルー、オーストラリア、中国、モンゴルは鉱石品位の改善や前年の供給障害による減産の反動で増加した。地域別には、アフリカが 2%、北米は 1%、オセアニアは 5%増加したが、アジアは 3%、ラテンアメリカは 4%、ヨーロッパは 3%減少した。鉱山稼働率は 81.8%から 80.6%に低下した。

地金生産の内訳は一次生産、二次生産ともに横ばい。国別には、中国が能力増強を背景に増加した。オーストラリア、ブラジル、ポーランドは前年の供給障害による減産の反動から増加した。しかしながら、チリはチュキカマタ製錬所の環境改善工事に伴う操業停止により 15%減少した。インドはツーチコリン製錬所の操業停止により 45%減少。DRC とザンビアは合計で 7%減少した。地域別には、アジアが 2%、オセアニアは 25%増加したが、ヨーロッパは横ばい、アフリカとアメリカは 8%減少した。精製工場の稼働率は 86.9%から 84.2%に低下した。

中国の見掛け消費(未報告在庫の増減を除外)はネット輸入がスクラップ供給タイト化を背景に 2.5%増加したことから 4%増加した。その他主要消費国のなかではインドが増加、日本、EU、米国は減少した。中国を除く世界は 4%減少した。

今後の需給動向については、国際銅研究会によれば、2019 年の世界の鉱石生産は 0.2%増の 20,641 千t、地金生産は 2.8%増の 24,780 千t、消費は 1.9%増の 24,969 千t、需給バランスは▲189 千tと供給不足幅が縮小する見込み。

2020 年は鉱石生産が 1.9%増の 21,029 千t、地金生産は 1.2%増の 25,080 千t、消費は 1.4%増の 25,330 千t、需給バランスは▲250 千tと不足幅がやや拡大する予想。

2019 年の鉱石生産はコブレパナマ鉱山(パナマ)の新規稼働、トケパラ鉱山(ペルー)の能力増強のほかいくつかの中小鉱山が稼働する一方、インドネシアはグラスベルグ鉱山の坑内採掘への移行、バツーヒジャウ鉱山の第 6 鉱体の鉱量枯渇により大幅に減少するほか、ザンビアが外資規制や税制改正の影響を受ける。

2020 年は前年に稼働した鉱山の操業が立ち上がり、インドネシアの生産も回復するため 1.9%増加する。

2019 年の地金生産は中国の電解能力が増強され、コンゴ民主共和国の EW 生産の立ち上がり、前年のオーストラリア、ブラジル、インドネシア、ポーランドなどの操業トラブル/定修閉鎖の影響が解消される。一方、中国、ヨーロッパの一部のスマルターは定修のため、チリやザンビアは操業トラブルのため生産が低下する。

2020 年は電解生産の伸びが精鉱市場のタイト化により抑制される。二次生産は2018年にわずかに減少したが、2019年、2020年は回復する。

世界経済の成長率は鈍化しており、2019年、2020年の世界銅消費に悪影響を及ぼす。中国は引き続き世界の銅需要の増加を牽引する。2019年の“実質的な”需要について、一部のアナリストは2.6%の増加を見込むが、見掛け需要は1.2%減少する。2020年は見掛け、実質ともに伸びが鈍化する。

EU、日本の2019年、2020年の需要は停滞する。米国は2019年が増加し、2020年は平準化する。中国を除く世界の消費は中東、インド、一部のアジア諸国に下支えられて2019年が1.7%、2020年は2%増加する。

International Copper Study Group
Copper Market Forecast 2018-2020

REGIONS (1000 t)	MINE PRODUCTION			REFINED PRODUCTION			REFINED USAGE		
	2018	2019	2020	2018	2019	2020	2018	2019	2020
Africa	2,236	2,382	2,584	1,440	1,509	1,679	203	203	213
N.America	2,528	2,595	2,715	1,829	1,842	1,845	2,359	2,390	2,405
Latin America	8,691	9,056	9,523	2,975	2,925	3,063	448	466	476
Asean-10/Oceania	2,112	1,914	2,057	1,063	1,219	1,222	1,192	1,232	1,267
Asia ex-Asean/CIS	2,345	2,438	2,559	12,391	12,926	13,831	16,028	16,426	16,666
Asia-CIS	867	864	867	452	448	448	106	106	106
EU	912	872	877	2,699	2,736	2,811	3,290	3,289	3,315
Europe Others	907	912	950	1,263	1,249	1,258	885	857	882
Total	20,598	21,031	22,130	24,111	24,854	26,156	24,510	24,969	25,330
World adjusted	20,598	20,641	21,029	24,111	24,780	25,080	24,510	24,969	25,330
% change	-2.5	0.2	1.9	2.4	2.8	1.2	3.3	1.9	1.4
World Refined Balance							-399	-189	-250

ICSG May2019

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

4/24 760 5/7 740 5/9 720 5/14 700 5/17 710 5/23 700

2. 銅地金生産・出荷・生産者在庫(2019年4月分=平成31年4月分)

生産 : 120,500t (前月比 4.2%減、前年比 11.0%減)

出荷 : 121,100t (前月比 9.0%減、前年比 5.1%減)

在庫 : 102,900t (前月比 8.9%増、前年比 2.1%減)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

2019(平成31)年4月の銅地金生産は前月比4.2%減、前年同月比11.0%減の120.5千tと、小名浜、直島製錬所の定修の影響で前月比が2か月ぶり、前年比は3か月連続で減少した。出荷は前月比9.0%減、前年比5.1%減の121.1千tで、前月比が3か月ぶり、前年比は2か月連続の減少。内訳は内販が前月比0.4%減、前年比0.4%増の83.9千tで前月比は3か月ぶりの微減、前年比は2か月連続の微増。輸出は前月比23.7%減、前年比15.5%減の37.2千tでともに2か月連続の減少。内販のうち電線向けは前年比2.0%増の51.8千tで2か月連続の増加。伸銅品向けは

1.0%減の 29.5 千tと 2 か月ぶりの減少。在庫は前月比 8.9%増、前年比 2.1%減の 102.9 千tで、前月比が 3 か月ぶりの増加、前年比は 2 か月連続の減少となった。

3. 需要部門別動向

日本電線工業会によれば、2019(平成 31)年 4 月の銅電線出荷は前月比 1.3%増、前年同月比 5.2%増の 59.6 千t(推定)と前年比は再び増加に転じた。うち内需は前年比 5.9%増の 58.3 千tで 2 か月ぶりの増加、輸出は 18.6%減の 1.3 千tで 4 か月ぶりの減少。内需の部門別には、自動車と建設電販が 7 か月連続の増加、通信は 3 か月ぶり、電力は 4 か月ぶり、その他内需は 5 か月ぶりの増加。電気機械は 8 か月連続の減少となった。

日本伸銅協会によれば、2019(平成 31)年 4 月の伸銅品生産は前月比 3.6%減、前年同月比 7.0%減の 65.0 千t(速報)と 5 か月連続の前年比減。うち内需向けは前年比 5.1%減の 54.8 千tで 4 か月連続の減少、輸出は 15.9%減の 10.2 千tで 5 か月連続の減少。品種別には、エアコン向けの銅管が 2 か月連続、半導体、コネクタ、自動車端子向けの銅条と自動車端子向けの黄銅条は 3 か月連続の減少、コネクタ向けの青銅板条は 9 か月連続の減少となった。

鉛

【海外】

2019 年 5 月の LME 鉛相場は年初来安値の \$1,800/t 台でスタートし、米中貿易摩擦が再び激化するなかを軟化し、月後半は 2016 年 8 月以来となる \$1,800 割れを低迷推移した。

米中貿易交渉は 5 日、トランプ米大統領が 2,000 億ドル相当の中国製品に対する制裁関税第 3 弾の税率を 10 日付で 10%から 25%に引き上げると表明した。「交渉が遅すぎる」として制裁強化に転じた。制裁関税を課していない残りの 3,250 億ドル分にも 25%の関税を課すと主張。

これに対して、中国政府は 13 日、600 億ドル相当の米国製品に 6 月 1 日付で 5~25%の報復関税を発動すると発表した。中国は昨年 8 月、米国製品に 25%の報復関税を課したが、実施日は確定していなかった。このなかに広範なベースメタル、マイナーメタル、フェロアロイも含まれた。また、中国外交部は 15 日、従来の「貿易摩擦」から「貿易戦争」に表現を変更し、中国は自衛措置を講じていると述べた。

さらに、29 日付の人民日報は中国政府がレアアースの輸出を削減する見通しを伝えた。米国が中国の通信機器大手ファーウェイを制裁対象としたことに対し、中国は米国へのレアアースの供給削減を選択した。中国は米国のレアアース輸入の約

80%を供給しており、米中の緊張はさらに高まった。

米国の対中国以外の貿易摩擦については、トランプ大統領は8日、イラン産の鉄鉱石、鉄鋼、アルミニウム、銅の購入を禁止する大統領令を発令した。イランが米欧など6か国と結んだ2015年の核合意の履行を一部停止すると発表したことを受けたもの。一方、17日には、カナダとメキシコの鉄鋼、アルミニウム製品に対する通商拡大法232条に基づく追加関税を撤廃することで合意したと発表した。ところが、30日には、メキシコ国境からの不法移民に同国が十分に対応していないとして、6月10日以降メキシコからの輸入品すべてに5%の関税を課し、移民の流入が止まるまで関税率を段階的に引き上げると表明した。

需給状況については、国際鉛亜鉛研究会によれば、2019年1～3月の世界の鉛鉱石生産は前年同期比6.9%増の1,259千t、地金生産は9.8%増の3,139千t、消費は8.9%増の3,146千t、地金需給バランスは前年同期の▲29千tから▲7千tへとほぼバランス推移している。3月末の地金の報告在庫は前年同月比14.1%減の380千t、在庫/消費比率は2.0週間から1.6週間に低下した。

鉱石生産はアジアが9.9%、アメリカは8.9%、ヨーロッパは1.8%、アフリカは8.7%増加、オセアニアは10.0%減少した。地金生産はアジアが14.6%、アメリカは4.1%、オセアニアは12.5%、アフリカは3.2%増加、ヨーロッパは1.2%減少した。消費はアジアが17.7%、アメリカは3.4%、アフリカは6.9%増加、オセアニアは横ばい、ヨーロッパは6.9%減少した。

中国は鉱石生産が11.0%増の607千t、鉛精鉱のネット輸入は32.1%増の185千t、地金生産は20.8%増の1,424千t、地金は5千tのネット輸出から57千tのネット輸入。この結果、見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫)は24.8%増の1,459千tとなった。

今後の需給動向については、国際鉛亜鉛研究会によれば、2019年の世界の鉛鉱石生産は1.8%増の4,754千t、地金生産は2.5%増の11,936千t、地金消費は1.3%増の11,865千t、地金需給バランスは+71千tへと2016年以来の供給過剰に転じる。

2019年の鉛鉱石生産は中国、インドの増加を主因に増加する。カナダ、ヨーロッパ、南アフリカも増加する。一方、メキシコ、ペルー、米国は2018年以上に減少する。

2019年の鉛地金生産は中国、インドの増加を主因に増加する。オーストラリアは14.3%、韓国は3.6%増加、ヨーロッパはベルギー、イタリアの増加を主因に2.9%増加する。

2019年の鉛地金消費はインド、日本、韓国が増加し、中国の1.1%減少を相殺する。米国は1.1%増加、ヨーロッパはフランス、イタリアの増加により1.8%増加する。

International Lead & Zinc Study Group
LEAD: World Production and Usage 2016-2019(1000t)

	2016 Actual	2017 Actual	2018 Estemate	2019 Forecast	% Change 18/17	% Change 19/18
Mine Production	4,688	4,713	4,669	4,754	-0.9	1.8
Europe	441	434	452	467	4.1	3.3
Africa	88	100	97	106	-3.0	9.3
United States	347	310	280	274	-9.7	-2.1
Other America	710	729	721	705	-1.1	-2.2
Cina	2,224	2,152	2,095	2,142	-2.6	2.2
Other Asia	437	528	555	602	5.1	8.5
Oceania	441	460	469	458	2.0	-2.3
Refined Production	11,159	11,588	11,644	11,936	0.5	2.5
Primary	4,574	4,415	4,415			
Secondary	6,585	7,173	7,229			
Europe	1,920	1,988	1,922	1,977	-3.3	2.9
Africa	121	122	125	126	2.5	0.8
United States	1,123	1,121	1,135	1,139	1.2	0.4
Other America	949	972	944	966	-2.9	2.3
Cina	4,603	4,870	4,910	4,981	0.8	1.4
Other Asia	2,219	2,347	2,412	2,523	2.8	4.6
Oceania	224	168	196	224	16.7	14.3
Refined Usage	11,130	11,744	11,708	11,865	-0.3	1.3
Europe	1,887	1,950	1,935	1,970	-0.8	1.8
Africa	120	116	118	124	1.7	5.1
United States	1,587	1,751	1,740	1,674	-0.6	-3.8
Other America	648	620	617	623	-0.5	1.0
Cina	4,577	4,936	4,905	4,920	-0.6	0.3
Other Asia	2,294	2,355	2,377	2,538	0.9	6.8
Oceania	17	16	16	16	0.0	0.0
Statistical Balance	29	-156	-64	71		
Reputed Metal Stocks	513	462				

ILZSG May2019

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

4/10 282 5/7 271 5/13 264 6/3 260

5月はLME鉛相場が月初から月末にかけて\$1,800/t台後半から\$1,800前後まで下げ続けたことで、弱含み推移となった。264千円/tは2016(平成28)年9月以来の安値となった。

2. 鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2019年4月分=平成31年4月分)

生産 : 16,120t (前月比 38.6%増、前年比 3.3%増)
 出荷 : 16,168t (前月比 11.5%増、前年比 5.7%増)
 在庫 : 12,852t (前月比 1.2%減、前年比 6.3%増)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

4月の生産は契島製錬所の定修明けから前月比、前年同月比とも4か月ぶりの増。出荷は前月の反動から前月比大幅増。前年同月比も2か月連続でプラスとなった。5月は大型連休があったものの、出荷好調。在庫は出荷増から前月比減だが、前年同月比は14か月連続の増。

3. 需要部門動向

3月の自動車生産台数は前年同月比4.1%減の900,593台となり、3か月ぶりに前年同月を下回った。乗用車は前年同月比3か月ぶりのマイナス、トラックも同7か月ぶりのマイナス、バスも同3か月ぶりのマイナスとなり、すべての車種で減少傾向を見せた。しかし、2018(平成30)年度の自動車生産は9,750,021台で3年連続のプラスとなった。

4月の自動車輸出台数は前年同月比2.2%減の422,646台となり、2か月連続で前年同月を下回った。

一方、3月の二輪車生産台数は前年同月比19.2%減の49,102台と4か月連続で前年同月を下回った。2018年度も前年度比1.2%減の626,668台と3年ぶりに低下した。

(一社)電池工業会の調査によると、3月の自動車用鉛蓄電池のメーカー販売個数は、新車用、補修用、輸出用を併せた総合計で2,227千個(前年同月比2%減)と2か月連続で低下、自動車用以外の鉛蓄電池も648千個(同9%減)と8か月連続で減少した。その結果、鉛蓄電池の出荷はトータルで2,875千個(同4%減)と2か月連続で低下した。

鉛関連製品生産統計

		2月	3月
自動車	数量(台)	864,463	900,593
	前年同月比(%)	100.9	95.9
自動車用鉛蓄電池	数量(鉛量t)	16,530	16,892
	前年同月比(%)	101.9	99.7

(出所:(一社)日本自動車工業会, 経済産業省生産動態統計調査)

2018(平成30)年度計:

自動車 9,750,021台(前年度比0.7%増)

自動車用鉛蓄電池 鉛量 200,395t(同1.5%増、3年連続の前年度比プラス)

【海外】

2019年5月のLME亜鉛相場は米中貿易摩擦が再び激化するなかを、月初の\$2,900/t水準から月末にかけて2月以来となる\$2,700割れへと弱含み推移した。

米中貿易交渉は5日、トランプ米大統領が2,000億ドル相当の中国製品に対する制裁関税第3弾の税率を10日付で10%から25%に引き上げると表明した。「交渉が遅すぎる」として制裁強化に転じた。制裁関税を課していない残りの3,250億ドル分にも25%の関税を課すと主張。

これに対して、中国政府は13日、600億ドル相当の米国製品に6月1日付で5～25%の報復関税を発動すると発表した。中国は昨年8月、米国製品に25%の報復関税を課したが、実施日は確定していなかった。このなかに広範なベースメタル、マイナーメタル、フェロアロイも含まれた。また、中国外交部は15日、従来の「貿易摩擦」から「貿易戦争」に表現を変更し、中国は自衛措置を講じていると述べた。

さらに、29日付の人民日報は中国政府がレアアースの輸出を削減する見通しを伝えた。米国が中国の通信機器大手ファーウェイを制裁対象としたことに対し、中国は米国へのレアアースの供給削減を選択した。中国は米国のレアアース輸入の約80%を供給しており、米中の緊張はさらに高まった。

米国の対中国以外の貿易摩擦については、トランプ大統領は8日、イラン産の鉄鉱石、鉄鋼、アルミニウム、銅の購入を禁止する大統領令を発令した。イランが米欧など6か国と結んだ2015年の核合意の履行を一部停止すると発表したことを受けたもの。一方、17日には、カナダとメキシコの鉄鋼、アルミニウム製品に対する通商拡大法232条に基づく追加関税を撤廃することで合意したと発表した。ところが、30日には、メキシコ国境からの不法移民に同国が十分に対応していないとして、6月10日以降メキシコからの輸入品すべてに5%の関税を課し、移民の流入が止まるまで関税率を段階的に引き上げると表明した。

亜鉛独自の要因としては、価格の先行き下落を見越したショート筋が6月渡しのプットオプションを履行宣言した。ロット数は5,125、履行価格は\$2,500/t。LMEワラントの少なくとも70%がわずか2社に保有されており、6月の亜鉛価格はロング筋とショート筋の攻防で混乱必至と予想される。

需給状況については、国際鉛亜鉛研究会によれば、2019年1～3月の世界の亜鉛鉱石生産は前年同期比1.8%増の3,073千t、地金生産は1.6%減の3,164千t、消費は1.4%減の3,179千t、地金需給バランスは前年同期の+37千tから▲15千tへとほぼバランス推移している。3月末の地金の報告在庫は前年同月比20.7%減の912千t、在庫/消費比率は4.7週間から3.5週間に低下した。

鉱石生産はオセアニアが52.3%、アフリカは15.9%増加、アメリカは横ばい、アジアは6.4%、ヨーロッパは1.4%減少した。地金生産はアメリカが4.3%、オセアニアは6.4%、アフリカは13.6%増加、アジアは5.6%、ヨーロッパは1.4%減少した。消費はアメリカが7.7%、アフリカは17.1%増加、ヨーロッパ、オセアニアは横ばい、アジアは4.6%減少した。

中国は鉱石生産が6.4%減の914千t、亜鉛精鉱のネット輸入は7.7%減の359千t、地金生産は5.9%減の1,306千t、地金のネット輸入は2.2%増の139千t。この結果、見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫/国家備蓄)は7.1%減の1,354千tとなった。

今後の需給動向については、国際鉛亜鉛研究会によれば、2019年の世界の亜鉛鉱石生産は6.2%増の13,480千t、地金生産は3.6%増の13,649千t、地金消費は0.6%増の13,770千t、地金需給バランスは▲121千tと供給不足幅が縮小する。

2019年の鉱石生産はオーストラリアが29.4%、中国は3.3%増加する。南アフリカはガムスベルグ鉱山の立ち上げで増加する。カナダ、キューバ、インド、ナミビアも増加する。オーストラリアはドウガルドリバー、マッカーサーリバー、レディロレッタ鉱山が増産となり、センチュリー鉱山、ウッドローン鉱山のテイリング処理プラントが稼働を開始した。ヨーロッパはポーランド、年後半にピュハサラミ鉱山が生産を停止するフィンランドが減少する。一方、ギリシャ、ロシア、スペインは増加する。この結果1.1%増加する。ペルーは1.4%、米国は2.3%減少する。メキシコはペナスキート鉱山の環境汚染による生産停止の影響を受ける。

2019年の地金生産は、前年3.1%減少した中国が5.3%増加する。ロシアはウラジカスカフ製錬所が2018年10月に永久閉鎖されたロシアが減少する。フランス、イタリア、ノルウェーは増加する。メキシコはトレオン製錬所の能力増強により増加する。インド、日本、ナミビアも増加する。

2019年の地金消費はヨーロッパがフランス、イタリア、ポーランドの増加を主因に0.7%増加する。米国は1%増加する。中国の見掛け消費は前年の1.3%減から0.6%増に転じる。インド、メキシコは増加、日本、韓国は横ばいの見込み。

International Lead & Zinc Study Group
ZINC: World Production and Usage 2016-2019 (1000t)

	2016 Actual	2017 Actual	2018 Estimate	2019 Forecast	% Change 18/17	% Change 19/18
Mine Production	12,604	12,522	12,691	13,480	1.3	6.2
Europe	987	1,037	1,092	1,104	5.3	1.1
Africa	343	421	418	638	-0.7	52.6
Peru	1,337	1,473	1,475	1,455	0.1	-1.4
Other America	2,514	2,564	2,622	2,601	2.3	-0.8
Cina	5,081	4,479	4,312	4,455	-3.7	3.3
Other Asia	1,458	1,703	1,660	1,788	-2.5	7.7
Oceania	884	845	1,112	1,439	31.6	29.4
Refined Production	13,578	13,221	13,171	13,649	-0.4	3.6
Primary	12,717	12,199				
Secondary	861	1,022				
Europe	2,420	2,446	2,530	2,510	3.4	-0.8
Africa	86	84	67	122	-20.2	82.1
Canada	691	598	696	700	16.4	0.6
Other America	1,033	1,014	1,044	1,143	3.0	9.5
Cina	6,196	5,850	5,670	5,970	-3.1	5.3
Other Asia	2,682	2,761	2,674	2,731	-3.2	2.1
Oceania	470	468	490	473	4.7	-3.5
Refined Usage	13,708	13,678	13,682	13,770	0.0	0.6
Europe	2,408	2,382	2,428	2,444	1.9	0.7
Africa	166	169	157	157	-7.1	0.0
United States	819	839	867	876	3.3	1.0
Other America	749	738	756	764	2.4	1.1
Cina	6,647	6,596	6,512	6,550	-1.3	0.6
Other Asia	2,782	2,804	2,807	2,825	0.1	0.6
Oceania	137	150	155	154	3.3	-0.6
Statistical Balance	-130	-457	-511	-121		
Reported Metal Stocks	1,375	1,024	894			

ILZSG May2019

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

4/1 382 4/4 385 4/9 379 4/15 391 4/18 376 4/23 370
5/7 367 5/10 352 5/15 349 5/22 355 5/27 349 6/3 340

5月の亜鉛建値は、LME 亜鉛相場が月初から月末にかけて\$2,800/t 水準から\$2,600 台後半へ下落し続けたために下げ基調で推移、6月上旬には340千円/tまで下げ、本年1月以来の低水準となった。

2. 亜鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2019年4月分=平成31年4月分)

生産 : 44,286t (前月比 0.8%減、前年比 4.5%減)
出荷 : 42,580t (前月比 15.5%減、前年比 3.9%減)
在庫 : 63,181t (前月比 2.8%増、前年比 7.7%減)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

4月の生産は2か月ぶりの前月比減、前年同月比も2か月連続の減。一部製錬所の生産調整が影響した。出荷は前月の反動と輸出の大幅減から前月比3か月ぶりのマイナス、前年同月比も2か月連続のマイナスと低迷状態が続く。前月同様、高炉に元気がなく、めっき向け販売も良くない。在庫は3か月ぶりの前月比増だが、前年同月比は7か月連続の減。

3. 需要部門動向

4月の鉱工業生産指数は前月比0.6%増、前年同月比1.1%減の102.8(季節調整済、2015年=100基準、速報値、以下同じ)となった。前月比は2か月ぶりの上昇、前年同月比は3か月連続の低下。自動車や生産用機械などの生産が増えた。一方で電子部品・デバイスなどの輸出関連品目は低調だった。経産省は生産の基調判断を「生産はこのところ弱含み」から「生産は一進一退」に上方修正した。しかし、1~3月からの回復は鈍い。

業種別では、15業種中10業種で上昇した。最も上げに寄与したのは自動車工業で、前月比3.2%増となった。前月大きく落ち込んだ生産用機械工業は同5.3%増だった。一方、電子部品・デバイス工業は同7.7%の低下だった。

4月の出荷指数は前月比1.7%増の102.6と2か月ぶりに上昇したが、前年同月比は1.5%減と5か月連続で低下した。

一方、在庫指数は前月比±0.0%の103.8、在庫率指数は前月比2.5%減の104.5となった。

大企業の生産見通しを示す製造工業生産予測指数では、5月が前月比5.6%の上昇、6月は同4.2%の低下を見込んでいる。

3月の亜鉛めっき鋼板生産は前年同月比3か月連続の減となり、弱含み状態。2018年度の生産は前年度比1.8%減の10,362千tと3年ぶりに前年度実績を下回った。

3月の伸銅品生産量は67,569t(確報値、対前年同月比▲7.1%)(対前月比+3.9%)、前年同月比は4か月連続のマイナス(1月▲2.0%、2月▲4.1%)。全14品種中、対前年比プラスは1品種。内需向け生産:56,218t、3か月連続の対前年比マイナス(▲6.3%)。輸出向け生産:11,166t、5か月連続の対前年比マイナス(▲12.4%)。

黄銅製品では、黄銅条が9,279t(対前年比▲3.9%)、2か月連続の対前年比マイナス。国内家電は堅調を維持しているが、中国市場での家電販売不振の影響分については減速が継続している。黄銅棒は14,417t、3か月連続の対前年比マイナス(対前年比▲10.9%)。水栓金具と大型連休による需要減の影響から低調。

2018(平成30)年度の黄銅製品生産全体では3年ぶりの前年度比マイナス。2018

(平成 30)年度の亜鉛ダイカスト生産は再び前年度比マイナスだが、亜鉛華は 3 年連続の前年度比増と堅調。

亜鉛関連製品生産統計

		2 月	3 月
亜鉛めっき鋼板	数量(千t)	779	917
	前年同月比(%)	96.3	96.7
黄銅製品	数量(t)	27,328	27,199
	前年同月比(%)	95.7	90.5
亜鉛ダイカスト	数量(kg)	1,404,509	1,917,109
	前年同月比(%)	85.7	104.7
亜鉛華	数量(t)	5,245	5,385
	前年同月比(%)	106.9	95.0

(出所:(一社)日本鉄鋼連盟、経済産業省生産動態統計調査)

2018(平成 30)年度計:

亜鉛めっき鋼板 10,362 千 t(前年度比 1.8%減)

黄銅製品 337,227t(同 1.1%減)

亜鉛ダイカスト 18,703,442 kg(同 6.2%減)

亜鉛華 63,066t(同 3.6%増)